

◇15年春予定、開院時期に影響も

生駒市立病院建設工事（予定価格約82億円）の電子入札が5日開札されたが、入札参加者がなく、不調に終わった。東日本大震災の復興事業の影響などで工事費が上昇する中、入札が不調に終わる公共工事も全国的に出ているが、市の関係者は「応札ゼロ」にショックを隠せない様子。山下真市長は工事単価を見直し、予定価格の増額を盛り込んだ補正予算案を11日開会の定例市議会に提案した上で、再入札の手続きを進める考えを示した。【熊谷仁志】

市は現在、2015年春開院に向け、ぎりぎりのスケジュールを組んでいる。入札の遅れで、開院時期の再変更を迫られる可能性も出てきた。

病院は当初、14年春の開院を予定。しかし、実施設計業者に入札参加資格がなかったことが判明するなどしたため、昨年2月に15年春に変更していた。その後も設計に時間がかかるなどし、入札時期が少し遅れていた。

一方、病院建設費は当初、50億円程度を想定した。予定価格が固まった昨秋は、落札率65%、75%、85%の3パターンで収支などを試算していたが、5月27日の病院事業推進委員会では、85%の試算だけを示していた。

関係者によると、応札ゼロの場合、予定価格を上げるほか、工期を延ばす変更を加えることもあるという。

生駒市の建設工事では、5月22日開札の市消防署北分署移転新築工事入札に1社だけ応札。予定価格約5億2200万円に対し、落札率は99・9%だった。